

公務員として活躍する都市基盤工学科卒業生からのメッセージ

国土交通省 中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所 調査課 勤務
富田 遼 さん（令和元年度卒業）

私は、令和元年度に本校都市基盤工学科を卒業し、国土交通省中部地方整備局に入省しました。入省してから3年が経ち、現在は岐阜県にあるダムの建設事務所で働いています。ダム事業というものはとても大きな事業で、多額の事業費や完成までに長い年月を要します。現在、携わっているダムは木曾川本川に建設され、岐阜県はもちろん愛知県や三重県などを洪水被害から守ります。このように、我々は、人々が安心して暮らせる社会の実現のために日々の業務を行っています。私は、この「国土交通省」という仕事に誇りを持ち、楽しく仕事をしています。これらは、科学技術高校で基盤となる知識を学び、先生方から多くのサポートを受けた賜物だと思っています。現在の国土交通行政は、気候変動による災害の頻発・激甚化や老朽化したインフラの増加などの課題が挙げられ、我々はこういった課題に対応していかなければなりません。共に働き、中部圏を災害に強い地域にしていきたいでしょう！



富田 遼さん（ダム工事現場にて）



川口 晃輝さん（生徒会長として文化祭を盛り上げました）

富士市役所 上下水道部
水道工務課 勤務
川口 晃輝さん（令和元年度卒業）

私は「誰もが安全で安心して暮らせる街づくりをしたい」という思いから都市基盤工学科へ入学しました。高校時代には、確かな知識や技術を身につけるため、授業や実習に真剣に取り組みました。先生方は、とても分かりやすく授業や指導をしてくださり、2級土木施工管理技術検定や測量士補などの国家資格を取得することができました。体育祭では、3年連続の学年優勝を目指し、クラスが一丸となって取り組み、今でも大変良い思い出のひとつです。また、「高校生ものづくりコンテスト」への出場や、東日本大震災の被災地訪問など、様々な経験をすることができました。なかでも、全国から集まった高校生たちと2日間にわたり、防災について議論した「高校生が被災地で考える防災サミット」は、私の人生を決定づける運命的な出来事でした。卒業後は、「生まれ育った地元・富士市に貢献したい」という思いから、富士市役所に入庁しました。現在は、土木技術職員として、老朽化した水道管を耐震性のある新しいものに布設替をする工事の設計（図面の作成）・積算（工事費の算出）・監督業務等に携わっています。仕事は、庁舎内での業務だけでなく、担当している工事現場へ行き、立会いやバルブ操作などをすることもあります。大変なこともあります。受注者と共に進めてきた工事が完成した時や、市民の方々から「ありがとう」と感謝のお言葉をいただいた時には、達成感とやりがいを感じます。科学技術高校には、日頃の授業はもちろん課外活動など様々なところで、人間的に大きく成長に導いてくれる環境があります。3年間ともに過ごしたクラスの仲間たちとは、卒業した現在でも連絡を取り合い、食事や旅行に行ったりもしています。科学技術高校で過ごした高校時代は、私にとってかけがえのない宝物です。ぜひ皆さんも、科学技術高校で『可能性の扉を開く鍵』を見つけませんか。